

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
加藤 知樹			
火1、火2			
添付ファイル			

科目の概要	生物が生きて活動し続けるには栄養素からエネルギーを産生し、エネルギーを取り出し使用する必要がある。本科目ではヒトが生きてするためのシステム（ホメオスタシス）、すなわち人体の構造と機能の基本的事項について講義し、人体に発生する疾患の理解の礎となる知識を学ぶ。また、適宜おこなう理解度テストなどの演習を通じて、管理栄養士・栄養士資格取得の心構えを身につける。
授業の内容	<p>第1回 解剖学・生理学の基礎 四大組織、細胞・細胞内器官の機能、ATP、栄養素</p> <p>第2回 消化器系① 消化器系臓器の構造と機能、摂食・嚥下、胃、小腸</p> <p>第3回 消化器系② 肝・胆・膵の構造と機能、大腸、排便</p> <p>第4回 まとめと振り返り① 理解度テスト①、その他重要事項の補足</p> <p>第5回 血液・循環器系① 血液成分、心臓と血管の構造と機能、代表的な血管、心周期</p> <p>第6回 血液・循環器系② 血圧と血圧の調節概要、微小循環、リンパ系</p> <p>第7回 呼吸器系① 呼吸器系臓器の構造と機能、気道と肺・肺胞、呼吸運動</p> <p>第8回 呼吸器系② 呼吸気量、酸素飽和度、呼吸の調節概要</p> <p>第9回 まとめと振り返り② 理解度テスト②、その他重要事項の補足</p> <p>第10回 泌尿器系 泌尿器系臓器の構造と機能、尿生成の仕組み、排尿</p> <p>第11回 体液と体液平衡 血液と体液、体液の酸塩基平衡概論</p> <p>第12回 内分泌系① 内分泌系臓器の構造と機能、視床下部・下垂体系、甲状腺、副甲状腺</p> <p>第13回 内分泌系② 膵臓、副腎、性腺、ホルモン調節の実際</p> <p>第14回 まとめと振り返り③ 理解度テスト③、その他重要事項の補足</p> <p>第15回 前期分総復習 解剖学・生理学基礎、消化・血液・循環・呼吸・泌尿・体液・内分泌</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	人体を構成する組織・臓器について構造と機能を理解し、説明できるようになることを目的とする。また、管理栄養士・栄養士として業務の遂行に必要な心構えを身につけ、実行出来るようになることを目的とする。
授業の方法	教科書と配布プリントおよびスライド（パワーポイント等）を用いた講義を実施する。適宜、資格取得にむけての理解度テストを実施し成績に反映させる。
成績評価の方法	以下の①②をとともに満たした学生に対し、本科目の単位が認定される。 ①既定の出席日数に達していること（ただし、全回出席が原則であることを十分に理解すること） ②理解度テスト（30%）と定期試験（70%）による総合評価（100点）で60点以上
教科書・テキスト	「読んでわかる解剖生理学（テキスト）」 竹内修二著、医学教育出版社
参考書	「せんぶわかる人体解剖図」 坂井建雄 他著、成美堂出版
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	人体の構造と機能について、講義で取り上げた知識については最低限、事後学修にて復習を行い知識の定着を図ること。また、人体に発生する疾患の理解につなげるため自主的に周辺知識の習得に励むこと。
履修上の留意事項	講義中の必要のない私語は固く禁じます。必要のない私語は周囲に迷惑をかけると同時に本人にとっても良いことはありません。また、私語や周囲への迷惑行為が頻繁に認められる学生には退室してもらうことがあります。

	す。栄養士・管理栄養士にとって、人体の構造と機能についての知識は必須です。単位さえ取得し進級すればよいという軽いものではありません。講義後は説明できるまで自らすすんで復習を行い、知識を身につけること。
オフィスアワー	まずは講義終了直後に教室にて声掛け下さい。
担当教員への連絡方法	講義日以外の連絡はこちらの電子メールまで : kato.biomed@gmail.com なお、連絡される際にはメール文面の冒頭に「大阪青山学生の〇〇××です」など、所属と名前（フルネーム）がわかる様にして下さい。質問者・送信者がわからないメール問い合わせには対応できかねます。
その他	講義の進捗状況や天候・天災などによる休講などでシラバス記載の予定を変更することがあります。